

第三編

秘

作戦

電報

大
二
〇
五
〇
九
〇
點

昭和一八六三

通電先 次長 支隊 戊 第三飛龍

目 部 隊 參 謀 長

呂集賊參電第三三四號(電註、電文破壞ノ爲通延ス)

二號作戦戦況

一軍ノ反轉ハ順調ニ進展シ本一日夕迄ニ宜昌方面ノ既設障地内ニ
集結ヲ完了ス第十三師團主力ハ宜昌附近獨立混成第十七旅團主
力ハ公安附近ニ夫々集結セリ

一我ガ反轉ニ伴ヒ一應追尾ヲ部署シツツアルモノノ如キモ其ノ行

勅ハ極メテ消極的ニシテ追躡スル敵殆ドナシ

第三期作戰ノ主要ナル戦果左ノ如シ

遺棄死體 一一、〇〇〇 俘 虜 二、〇〇〇

要塞砲 三(野砲級)山砲 五

其ノ他

砲 七 迫撃砲 一八

重機關銃 二九 輕 機 一五三

小 銃 一、六六〇

我が損害

戦 死 三三一(二五)戦 傷 一、二五三(六六)

尙第三期ハ山嶽地帯ノ作戰ナリシ爲戰果ヲ確認シ得ザルモノ多ク
實際戰果ハ更ニ大ナルモノト認ム

四本一日飛行第四十四戰隊ニ協力シ公安北方ニ不時著セル敵機五

(「P I 四〇」ニシテ中破二、小破三)ヲ捕獲セリ

搭乗者目下搜索中

(終)

47
01

1621

第二輯

日誌 至隱極秘

電報

昭和一八六四

一六九〇
一〇九〇
三〇〇〇
〇三〇〇

呂部除參謀長

通電先 次長 支那總軍 第三飛行師團

呂集戰參電第三三八號

一軍ノ反轉ハ順調ニ進捗シ其ノ大部ハ之ヲ完了セル所宜都方面ニ於
テ第十三師團ノ一部集結遲延シ本三日朝來新ニ石門方面ヨリ漁洋
關ヲ經テ宜都及枝江方面ニ進出セル第七九軍ト交戦スルニ到レリ
二軍ハ第十三師團及獨立混成第十七旅團等ヲ以テ宜都方面ニ進出中
ノ敵ヲ捕捉撃滅ス

第三師團、第三十九師團主力ハ針谷、戸田、野溝各支隊、戦車第
十三聯隊、第百一師團等ハ豫定ノ廻替備態勢（原所屬）ニ復歸セ
シム

渡河材料中隊

（終）

第三報
秘用

電報
支那總軍 第三飛行師團
呂部 隊 參 謀 長

昭和一八六

通電先 次長 支那總軍 第三飛行師團

呂集戰參電第三五七號

一本四日夕刻ニ於ケル作戰部隊ノ狀況左ノ如シ

- (1) 第十三師團ハ宜都附近ニ兵力ヲ集結聶家河(宜都西南方一六紵) 周邊ニ於ケル第七九軍ノ捕提擊滅ヲ準備中ナリ
- (2) 獨立混成第十七旅團ハ公安ヨリ茶元寺(枝江南一五紵)ニ向ヒ突進中ニシテ其ノ先頭ヲ以テ磨盤洲(茶元寺西南方二四紵)ニ

到達セリ

(9) 小柴支隊ハ藕池口ヨリ公安ニ向ヒ前進中

ニ第七九軍ハ依然宜都及枝江方面ニ近迫中ニシテ第七四軍ノ一部

(約一箇師)煖水街ヨリ西齊方向ニ進出セリ

南側正面ニ於テモ亦軍ノ撤退ニ伴ヒ敵ハ逐次我ニ近接中ナルモ敵

ノ行動ハ一般ニ消極的且慎重ナリ

ニ第三期作戰主要戰果次ノ如シ(前電ハ整理ニ重複セル點アリテ誤

ニ付取消)

62 51

1625

44

遺棄死體	九、〇一七	俘	一、二三四
要塞砲	三	山砲	三
迫撃砲	一五	其ノ他砲	七
重機	二〇	輕機	一二四
小銃	一、二五二	擲彈筒	一〇四
民船	五〇〇		
我が損害			
戦死 [?]	二八六(一〇) [?]	戦傷	一、一四九(七四)
戦死馬	一五三		

(終)



極秘
誌用

電

通電先 次長、支總

第三飛行師團

呂集戰參電第三七三號

報

呂部隊參謀長

昭和十八年七月
大六〇〇〇
一〇五三〇
一五五〇
發
著
受
點

二號作戰戰況

本五日夕刻ニ於ケル作戰部隊ノ狀況左ノ如シ
一第十三師團ハ拂曉ヨリ主力ヲ以テ宜都南側
地區ヨリ一部ヲ以テ洋溪(枝江東南五軒)附
近ヨリ聶家河ニ向ヒ攻撃ヲ開始シ洋溪方
面ヨリ前進セル一部ハ夕刻聶家河ニ突入潰

乱セル敵ヲ捕捉殲滅中ナリ

二獨立混成第十七旅團ハ銳意前進ヲ續行

部隊ハ洋溪南方一二料ニ進出セリ

三我が攻撃ヲ受ケザル正面ノ敵ハ引續キ我

向ヒ近接中ナルモ積極的企圖ハ殆ド認メラレズ

(終)

46

日誌
秘用

第三編

電

通信先

次長 支 隊 第三飛行師團

呂 郭 蔭 郭 謀 長

呂集戰參電第三九二號

一本七日夕刻ニ於ケル作戰部隊ノ狀況左ノ如シ

(1) 第十三師團ハ濟家河（宜都西南一八軒）及市外北方地區ノ殘敵ヲ掃滅シツツ主力ヲ以テ逐次枝江南方地區ニ集結中ナリ

(2) 獨立混成第十七旅團ハ昨六日新河市（西齊東方一〇軒）附近ニ

於テ第七四軍ニ屬スル第五一師及第五八師ノ主力ヲ捕捉擊滅本

42

55

昭和十八年八月

1629

夕新河市南方地區ニ兵力ヲ集結中ナリ

(3) 小柴支隊ハ公安附近ヲ確保シ在リ

一 軍ハ明八日公安地方及南方地區ノ第四四軍ヲ急襲捕捉ス

二 敵ハ第七九軍及第七四軍ノ潰滅ニ依リ著シク動搖シ各部隊ノ前進

ヲ抑制シテ待機セシメアルノミナラズ一部ノ部隊ニハ後退ヲ命ジ

アリ

(終)

國ハ牛浪湖（公安西南一二軒）南側地區大門土地附近ニ轉
進中ニシテ殆ド敵ニ遭遇シアラズ

(3) 飛行第四十四戰隊ハ主力ヲ以テ小柴ニ協力セリ

三軍ハ第十三師團ノ一部ヲ以テ新ニ江南ノ要線ヲ占領シテ沙市
ヨリ下流揚子江ノ交通ヲ確保シ第十三師團主力ヲ公安附近ヨ
リ沙市對岸ヘ獨立混成第十七旅團及小柴支隊ヲ石首附近ニ
夫々撤退シ原態勢ニ復歸セシム

三軍戰團司令所ハ明日漢口ニ歸還ス

四機ニ警備態勢ニ復歸セシメタル諸部隊ノ歸還ハ順調ニ進歩中
ニシテ一部ハ既に原駐地ニ歸還セリ

(終)

日 誌 秘

第三課

電

報

六	一
一	一
八	二
八	三
〇	四
〇	五
〇	六
〇	七
〇	八
〇	九
〇	十
〇	十一
〇	十二
〇	十三
〇	十四
〇	十五
〇	十六
〇	十七
〇	十八
〇	十九
〇	二十
〇	二十一
〇	二十二
〇	二十三
〇	二十四
〇	二十五
〇	二十六
〇	二十七
〇	二十八
〇	二十九
〇	三十

呂 部 隊 參 謀 長

昭和二十六年六月

通電先

次長 支

第三飛行師團

呂集參電第七〇六號

二號作戰ニ於ケル作戰開始ヨリ六月十日迄ノ綜合戰果左ノ如シ

遺棄死體三〇、七六六 俘 虜 四、二七九

要 塞 砲 三 山 砲 八

速 射 砲 四 機 關 砲 一 二

平 射 砲 二 迫 撃 砲 四 八

59

59

1633

戰	戰	戰	戰	戰	無	擲	小	軍
傷	死	傷	死	死	線	彈	銃	機
馬	馬	二、七四六(二三八)	七七一(一五七)	一三	機	筒	三、〇四一	八四
二二四(七四)	四二三(二〇七)				一七	一二五	擲	輕
					防	電	彈	機
					毒	話	銃	二九八
					面	機	一一三	
					八六〇	五七		

飛行機撃墜回数等 一三

我方損害(括弧内ハ敵機ニ依ル損害ノ再記トス)

(終?)



作戰緊急

日誌
極秘

電報

通電先 總參謀長

呂戰參電第二六號

呂部隊參謀長

昭和十八年二月三日
一四二五二九
一四二五二九
一四二五二九
一四二五二九
一四二五二九

一、軍八十一月一日朝迄ニ揚子江ヲ渡江シ豫定ノ如ク
集中ヲ完了セリ

各兵團ノ狀況左ノ如シ

(1) 第三十九師團浣市(沙市西西南ニ。料)ヨリ

彌陀寺(含マズ)ノ間

(2) 第十三師團ノ主力ハ彌陀寺附近一部ハ黄金口

(彌陀寺南方三二料)附近

(3) 第三師團ノ主力ハ板口(公安東南方一六料)

一部ハ渣滓岡（公安東北四料）及周家廠

（拓口東南一。料）附近

(4) 第百十六師團 高家場（石首西北一二料）

附近

(5) 第六十八師團 華容附近

但シ本二日夕迄ニ華容西南九都大河ノ線ニ

進出ス

二、敵ハ我ガ軍ノ進攻ヲ危惧シ一部後方機關ヲ後

退セシメアルモノノ如キモ進攻ノ時期及方面ニ関シ

テハ尚察知シアラザルモノノ如シ

敵ノ配備ニ関シテハ大ナル変化ヲ認メズ

三軍ハ本二日十七時—十七時三十分ヨリ攻撃ヲ

開始シ先ヅ王家廠（澧縣西北方四〇料）及

家郷方面ノ敵ヲ捕捉殲滅ス

（終）



陸軍省

用 秘

電 報

1140105發 1141000受
1140103著 1141000點

昭和一八一四

呂 部 隊 參 謀 長

通電先 次長 支那總軍

呂戰參電第三二號

一 軍八十一月二日日没後豫定ノ如ク攻撃ヲ開始セリ

二 三日夕ニ於ケル各兵團ノ狀況左ノ如シ

(1) 第三十九師團ハ新江口(松滋東南一二軒)附近太平運河ノ敵

ヲ渡河攻撃中ナリ

(2) 第十三師團ハ老嘴(沙市西南方四〇軒)南側ニ於テ太平運河

ヲ渡河引續キ進撃中ナリ

(8) 第三師團ハ公安附近ノ敵ヲ攻撃中ナリ

(4) 第一百六師團ハ沙口（石首西方二〇紮）北側地區ヲ進撃中ナリ

(5) 第六十八師團ハ主力ヲ以テ南縣西北四紮附近ヲ、一部ヲ以テ

南縣東南八紮附近ヲ進撃中ナリ

兵飛行第四十四戦隊ハ三日早朝ヨリ密ニ軍ト協力シツツアリ

(終)

(計 一三箇師)ヲ完全ニ殲滅スルト共ニ

第七九軍(第九八師、第一九四師、暫編第六師)

第六六軍(第一八五師、第一九九師)

第七四軍(第五一師、第五八師)

(計 七箇師)ヲ撃滅

第一八軍(第一一師、第一八師、第一六二師、第一三師)

(計 四箇師)ヲ撃破セリ

ニ常德附近ノ敵軍事根拠地ハ十二月八日迄ニ之ヲ徹底的ニ覆滅セリ

ニ十二月八日迄ニ判明セル主ナル戦果左ノ如シ

遺棄死體 二九、五〇三(師長六名ヲ含ム)

俘 虜 一四、〇二五

山 砲 二五 速射砲 五

重 機 一七九 輕 機 四四一 小 銃 五、四九〇

擲 彈 筒 (銃) 三〇二

四 我方損害 (十二月八日調査)

戦 死 一、二七四 (一一六)

戦 傷 二、九七七 (二一六)

(終)

第 二 冊

同 誌 用

極秘親展

電 報

一 一 〇 〇 二 一 三 五 發
一 一 〇 〇 四 二 五 著

一 一 一 一 一 一 〇 〇 六 一 五 受 付
〇 〇 八 四 〇 點 檢

昭和 一 八 一 一 一 一

通電先 次長 支線

呂 部 隊 參 謀 長

呂戰參電第九四號

軍ハ潰亂セル第七章ヲ徹底的ニ剿滅中ニシテ更ニ新安及石門附

近以北ニ進出シ來レル第七三軍主力ヲ濰水以北ニ於テ急襲殲滅

ヲ企圖ス

之ガ爲軍ノ第二期作戰開始ハ數日來ノ濛雨ト相俟チテ若干日延

期スルニ至レリ

(終)

第三課

至急極秘軍報

通電先 支總

参考 次長

呂戰參電第六八號

呂部隊長

昭和一八一三
 一三五發 一三三三 受付
 一三一〇 著 一四一〇 点檢

總參一電第七二〇號ニ基テ軍ノ現況及爾後ノ作戰指
 導大綱左ノ如キニ付報告ス

一現況

軍ハ呂戰參電第六三八號ヲ以テ報告セシ如ク十一日日夜
 後常德附近ヨリ反轉ヲ開始シ十二日夜主力ヲ以テ澧
 水河畔ニ達ス 十二日夕軍ハ反轉順調ニ進捗シテ

ヲ以テ更ニ松滋河右岸ニ向テ反轉ヲ既ニ命令シ同日夜

第十三師團ハ澧水北岸地區ニ進出中ニシテ爾餘ノ

師團ハ澧水南岸地區ニ於テ渡河準備中ナリ

以上ノ現況ニ於テ本十三日三時總參一電第七ニ。號ヲ

受領ス

二、作戰指導ノ大綱

軍ハ主力ヲ以テ澧水南岸地區ニ態勢ヲ整頓シテ爾後

爾後ノ攻勢ヲ準備ス

三、右ニ基キ軍ハ取敢ズ十三日三時軍主力ヲ澧水南
岸地區ニ停止セシムル如ク發令セリ

(終)

第三編

至意極秘軍機

電報

昭和八年三月三日
二二〇ニ發 一三六ニ受
二三三 一四〇ニ發

通電先支總

參考次長

呂部隊長

呂戰參電第六九一號

總參謀長へ

軍參謀長ヨリ

軍ハ取敢ズ十三日朝第三師團第六十八師團及第

百十六師團ヲ澧水南岸地區ニ停止第十三師團ヲ

王家廠附近ニ集結セシメ又一支隊ヲ以テ安郷ヲ

確保セシメヌリ

12

72

1646

然レドモ右態勢ハ原態勢ニ復歸スル爲途中ヨ
リスル應急處置ニシテ兵站其ノ他諸準備、既ニ
其ノ大部ヲ撤收シ爾後ノ攻勢ヲ再興セントスル場
合ニハ之ガ準備ニ相當ノ時日ヲ要スル莫情アリ
而シテ軍ハ今次作戰ヲ總軍ノ指示ニ基キ本月
中ニ終了スル目途ニ應ズル諸準備ノ下ニ作戰ヲ開始
セルヲ以テ常德附近ヲ確保セントスル作戰目的ノ爲ニ
軍全般ノ計畫及諸準備ヲシテ更ニ慎重ニ考慮セシ
ラルルノ要アリ

1647

1573

13
軍現下ノ眞情ハ以上ノ如キヲ以テ軍トシテモ一應
今次ノ作戰ヲ打切リ明春更ニ常德附近ノ確保
作戰ヲ復興セシメラレ度意見ナリ

尚軍ハ現下ノ取敢ズノ態勢ヲ以テ長時日ヲ経過
スルコトハ適當ナラハルヲ以テ何分ノ指示相成度

(終)

第三課

極秘軍機

電報

昭和一八、一二、一四

一二二四 一二四三發
一二二五著 一二一四 一二四〇受付
一二一〇點檢

參考次長

呂部隊長

通電先支總

呂戰參電第七〇三號

意見具申

軍ハ現在ノ態勢ヨリ引續キ攻勢作戰ヲ再興スルコトハ作戰目的
ノ變更ヲ要ス 軍ハ作戰準備及軍隊疲勞ノ實狀並ニ警備正面確
保ノ限度等ヨリスルモ得策ニアラザルヲ以テ今次作戰ヲ速カニ
打切り明春更ニ準備ヲ整ヘタル後新作戦ヲ開始スルヲ適當ナリ
ト信ズ

右第一線軍ノ純率上ヨリ鑑ミテ尙打通作戰ノ爲常徳附近ヲ確保

14

75

1649

セントスル場合ニ於テハ相當大ナル兵力ヲ之ニ膠着セラルルヲ
豫期セラル又算ハ現在ノ線ヲ其ノ儘長ク停止スルコトハ爾後ノ
作戦彈力保持上適當ナラズト信ズ

(終)

1650

報

昭和一九、四、二八
二六、三〇五、被
二七〇、三〇〇、著
二八、一六五、提出

呂 部 隊 謀 長

通電先 次長、支總、甲、波、登、第五航空軍

呂 參 覽 第 九 九 〇 號

五號漢習間主要地名ヲ左記ノ通假稱ス

(括弧内ハ假稱名トス)

蒲圻(富陽)、本江(長陽)、瀏陽(建始)、湘潭(巴東)、衡

山(奉節)、資慶(梁山)、零陵(慈州)、興安(涪陵)、來陽

(利川)、郴縣(來鳳)、樂昌(秀山)、泊水(漢洋河)、撈刀

河(清江) (終)



次長

第五六四一號

外國放送傍受情報

(第四班分室)
昭和一九四四・二八

第八報

東南亞

短波放送

◎日本兵捕虜日本軍補給線ニ對スル聯合側攻襲ノ效果ヲ認ムト

(香港・四月二十八日八時)

最近緬甸戰線デ聯合軍ノ俘虜トナツタ一日本兵俘虜ハ聯合軍ノ補給線遮斷ハ非常ニ效果的デ吾々日本兵ハ何時モ空腹デ食糧ノ給與ハ非常ニ愚才、吾々ハ何處ニキテモ軍隊ニ引張ラレルト述ベ

1652

第三課

極秘親履

電報

昭和一九、五、二
二〇二二〇號
二〇二二〇號
提出

呂 部 隊 參 謀 長

通電先 次長、次官、支、甲、波、登、仁、第五航空軍、第二船務司

呂 參 謀 第七五號

企圖秘匿ノ爲「ト」號演習關係ノ命令通報 報告等ニ限リ左記ノ如

ク秘匿部隊名ヲ使用ス（括弧内ハ決定トス）

左 記

旭集團（第十一軍（呂集團））（武漢防衛軍）

山部隊（第三師團） 鹿部隊（第十三師團） 健部隊（第三十四師團）

威部隊（第四十師團） 廣部隊（第五十八師團） 佐部隊（第六十

378

1653

八師團 岩部隊 一第百十六師團（竹部隊） 一（第二十七師團）

野部隊 一野地交隊 一獨立歩兵第五旅團ノ三大隊基幹 一 峯支隊 一

獨立混成隊 十七旅團ノ二大隊基幹 一 瀧部隊 一歩兵第九聯隊主力

基幹ノ部隊 一 針部隊 一歩兵第二百十八聯隊主力基幹ノ部隊

平部隊 一軍二兵隊 一 鐵部隊 一軍鐵道隊發破部隊 一 里部隊 一軍船

船? 一 齋部隊 一軍通信隊津部隊 一軍輸送隊加部隊 一第百八十一兵站

加區隊 一 池部隊 一第百八十二兵站地區隊

（終）

秘親展

修理車

一五〇

九五式輕操舟具甲

舟艇

五五〇

六〇〇

三、以上、外戰車主力ノ参加ヲ考慮シアリ
尚航空關係ハ別報ス

(終)

秘親展

1022

1656

08

部

秘至急

電報

報 四〇七〇

威部隊總參謀長

昭和一九四〇年八月

參考 波長支總 波林龍討

通電先 森信

威參電第九三號

第五飛行師團ニ於テ四月二十五日インパールニテ

面ヨリ「フォートヘルツ」北方上空ニ追撃撃隊セ

ル敵大型機ハ支那要人搭乗機タル疑アリ

特種情報機關ニ依リ本件ニ關聯スル情報ノ收

集並ニ之ガ速報ニ留意セラレ度

(終)

極秘至急

電報

第一七一五發
四〇八三〇著
〇九二〇受付
一一九〇提出

昭和一九、五、四

呂 部 隊 課 長

通電先

次長、支總、第五十八師團、參、甲、仁
橋へ以團司令所ノミ

呂 參 電 第 一 〇 號

軍ハ豫定ノ如ク一日夜一確山ニ演習ヲ開始セリ 三日明迄

ノ狀況左ノ如シ

一宮下兵團ハ歩兵七箇大隊基幹ヲハ一日二十時頃主力ヲ以

テ長臺關附近ヨリ一部ハ歩兵二箇大隊ヲ以テ洋河嶺ハ

長臺關東東南約一六軒ノ附近ヨリ攻勢ヲ開始シ二日十二

時明港ヲ占領シ引續キ本日拂原新安店ハ長臺關北三〇

軒ノ附近ニ進出ス 確山附近ニ向テ爾後ノ前進ヲ準備中

云 同方面ノ敵ハ既ニ退却シテ飛行機偵察ニ依リテ確山
附近以南ニ敵部隊ヲ認メズ

(終)

敵性情報

社団法人 同盟通信社内

情報局 分室

本資料中には敵国其他外國の宣傳情報を含み採用せるもの多く取扱に特に注意ありたし

第二號 十九年四月廿五日

◎ スウェーデンの立場

又

1660

同盟「ストックホルム」十三日發(延着)
 倫敦の「タイムズ」紙は「スウェーデン政府の對する通告はニ
 ーヨークの新聞で發表されたが右通告に對
 する米國新聞の論評は「スウェーデンに對し
 てかなり苛烈である。ニール・ヨーク・ヘラ
 ルド・ロトシビニオン紙は「經濟的指借」の
 中には悉らく石油輸出の禁止及び小麦、皮
 草輸出の停止も含まれるであらうと述べ、
 の新聞は

若し中立國が聯合國のためにならぬやう
 な行動を採らぬ限り、然と宣言したる
 限り平和會議に於いては實戰な地位
 が與へられぬであらう
 と述べてゐる、ワシントン紙ではまた

續く

昭和十九年四月廿五日

機密至急親展

目録用

電報

參考次長

通電先支總

呂參電第三七四號

軍集中順調ニ進捗シテ近日朝概ニ左

態勢ニアリ

岩部隊先頭ヲ以テ龍車灣附近(宜昌北方

約四〇料場江岸)ヲ廣部隊ハ沙市附近

ヲ共ニ東南進中

成部隊ハ安陸華容間地區ニ集中ニアリ

佐部隊ハ當陽(宜昌東東方約九〇料)附近ヲ

健部隊ハ咸寧附近ヲ共ニ西南進中ナリ

五、三六
一六三七發
二一〇替

呂部隊參謀長
五、三一、三五受附
二二、〇五提

(44) 山部隊ハ嘉漁(武昌南南西ハ料)附近ヲ鹿部

27 隊ハ山縣(武昌南約四五料)附近ヲ共ニ南進中ナリ

(5) 竹部隊ハ遂次武漢ニ集結中ナリ

二未ダ大ナル敵機ノ攻撃ヲ受ケズ又雨影郷音モ

目下ノ所僅少ナリ

三軍主力ハ集中ハ二十五日夜完了ノ豫定

(終)

8438

1662

極秘

日誌
電報

電報

参 考 次 長 次 官 甲 波 登 仁 第 六 十 四 師 團

第 二 船 輪 司

通 電 先 支 總

呂 参 電 第 三 八 二 號

軍 司 令 部 八 二 三 日 當 陽 = 推 進 ス

三三、一三一〇、
三三、一六一〇、
三三、〇二一〇、
三三、一六一〇、
三三、〇二一〇、
三三、一六一〇、
三三、〇二一〇、
三三、一六一〇、
三三、〇二一〇、
三三、一六一〇、
三三、〇二一〇、

昭 和 五、 五、 三三、

終

第四班

極秘至急

電

報

昭和一九五二
五二四
一三三〇
一六一〇
二四
二三三〇
本部隊參謀長

次長
參謀
林方參一電

宛

五〇五九號

參電第五二八號(總註第五八號)戰況照會(注、誤カ)關スル部隊現況左ノ如シ

一、インペール方面増強部隊

(1) パレル方面増強部隊

步兵第二百十三聯隊第一大隊一中隊(械關銃一小隊屬)及野砲兵第二十一聯隊第二大隊ハ「モル」陣地ノ敵撤退ヲ期トシ直チ「パレル」方面ニ突進シ目下山本支隊方面ニ於テ戰鬥中

(2) ビンエンプル方面増強部隊

第一次増強部隊ハ步兵第六十七聯隊第一大隊(一中隊欠)及步兵第五百十四聯隊第二大隊(砲兵一中隊屬ス)ハ既ニ(二十日)「モル」南方隘路口ニ蟠踞ス敵ニ對シ攻撃手中ナリ「パレル」方面ヨリ轉進中、戰車第十四聯隊ノ主力及十加榴各一中隊ハ其先頭ヲ以テ二十日夜「キウラヤン」ニ到着セリ

第二次増強部隊中步兵第五百十一聯隊(第一大隊欠)聯隊本部重火器部隊及第三大隊ハ二十日其先頭ヲ以テ「イウ」ニ到着スベク又同第三大隊ハ十八日「ムルダバン」發「イウ」ニ突進中ニシテ同日到着ハ二十九日予定ナリ

又野砲兵第二聯隊第三大隊及工兵第五十三聯隊一中隊ハ十八日「ムルダバン」發步兵第五百十一聯隊第三大隊ト相前後ニテ前進中

工兵第三聯隊一中隊ハ南方野戰鐵道司令官指揮下

1665

ニ雨季ニ入りタルモノノ如ク二十三日、二十四日共相當ノ降雨

アリテ局部ニ於テ一部自動車隊等ノ前進ニ支障ヲ生ジアリ

二十五日ハ天候回復セリ

ニ集中間行軍部隊ニ對スル敵機ノ攻撃ハ僅少ナリシモ漢口、宜

昌、沙市間ノ水路險送ニ任シタル舟艇、民船ヲ除キ約三〇隻

ノ損害ヲ受ケタリ

前進司令所ハ揚子江方面海軍根據地隊ニモ傳ヘラレ度

(終)

第四班

秘

2

電報

幕部長宛

沿参電第八三七號

平館大尉へ

馬杉参謀ヨリ

一 莊村謙吉以下ノ當軍要員ノ採用狀況

二 莊村望月西氏ノ至急空路派遣事

三 右ノ他人員ノ派遣期日 軍特裡作開始既ニ其ノ緒

ニ就キアルモ人員ノ點ニ支障アリ 幸ヒ獲得セシ人員

ニ関シ其來着ヲ鶴首待望ナル所ナリ付至急前記

ニ関シ回答煩シ度

昭和一九、五、二四

五三二六ニロ發三三三ニロ發

沿 部隊参謀長

終

3381

1667 88